「石黒先生の思想に共鳴し、感化されました」
ホテルの業態を革新、環境と調和した事業を展開

ワシントンホテル株式会社 元代表取締役社長　野澤　商策 氏

「環境を重視したホテルを経営」

ワシントンホテルの事業で注目すべきは、環境を重視した経営を展開していったことだ。きっかけになったのが、石黒隆敏氏との出会いだった。同社の付き合いがある設備関係者の紹介と記憶している。社長になるずっと前のこと。システマチックなモノの考え方に興味を覚えた。人間の心は1つのものを共有させると、同じような考え方になるという集団心理などについて、石黒氏は熱く語ったという。

「環境に関する石黒先生の話は、それまで環境についてそれほど意識していなかった私の中に、すっと入ってきました。ビジネス上の関係というよりも、環境に対する先生の思想に共鳴し感化され、交流が続いているというのが正直なところです。設備設計に関しては、建物の中にどんな空気の流れをつくるかということから始めるべきというようなお話を鮮明に覚えています。こうした思想に刺激を受けました」

ビジネス面では、ワシントンホテルプラザの設備設計や各種のスタディ･コンサルティングを石黒氏に依頼するようになる。代表的なホテルの1つが広島ロイヤルワシントンホテル。「高層都市型ホテルで、設備設計とコンサルティングをお願いしました」。変わったところでは、ワシントンホテルプラザに宿泊したお客様に対する顧客満足度調査などもある。

「人とのつながりを大切にする」石黒氏の姿勢にも感銘を受けた。そんなこともあって、石黒氏らが設立した特定非営利活動法人 日本グリーンビルディング協会の理事に就任する。

１９９７年、同社は標語「地球のためにできることをひとつずつ」を作成し、環境に関する積極的な取組を開始する。背景には、地球環境を始め環境問題に対する強い危機感があった。翌98年には、環境面を徹底的に追求し「見栄で泊まるのではなく実用的に泊まることができる」新しい業態のホテル「Ｒ＆Ｂ」の第1号を、東京･日本橋に開業している。99年には、熊本ワシントンホテルプラザでホテル業界初となるＩＳＯ14001を取得した。

「時代の流れというものが、まさに目の前に流れているということを実感しました」。

実は石黒氏と環境について話していた際に、「経済」と「環境」が結びついていないという石黒氏の指摘があり、何か一つの考え方をするようにという趣旨の助言があった。

「努力した結果、石黒先生が指摘した経済と環境が結びつき、省資源やごみ減量化だけでなく、経済効果を生み出し、利益を出すという企業の原点にも回帰する取組になったと受け止めています」

「地球のためにしなければならない」

ＣＳＲ（企業の社会的責任）への取組は、今日では日本の企業でも不可欠となった。ＣＳＲへの対応なしには、企業は存続できないまでになりつつある。近年ではＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）への対応も求められるようになってきた。

企業の社会的責任には、利益の創出、法令遵守、情報公開 、環境問題への対応などがあるが、「環境は今や法令遵守や利益確保と同列に置かれているという考え方をしなければならない時代」「環境をきっちり促進しながら利益を確保していかなければならない時代」だと野澤氏は1990年代から主張してきた。今から30年近くも前に、地球環境保全やＳＤＧｓを先取りした活動を展開していたのである。

こうした活動を展開する上で、「石黒氏の影響は大でした」と振り返る。

「『地球のためにできることをひとつずつ』の標語は、『地球のためにしなければならないことをひとつずつ』に変えなければならない環境経営の時代が到来しました」。環境を軸に、環境と調和した事業を展開し、企業の業態革新と発展をめざした経営へと転換していった野澤氏にとって、石黒氏の存在は極めて大きい。